

水循環健全化に係わる地域活動の継続・安定した実施のための要因について 地域性と地域活動との関係に着目して

国土交通省 国土技術政策総合研究所 正会員 ○伊藤 嘉奈子
 国土交通省 国土技術政策総合研究所 正会員 富田 陽子
 国土交通省 国土技術政策総合研究所 正会員 藤田 光一

1.はじめに 社会資本の維持管理、地域の安全・安心の確保、環境保全、生活快適性の向上、地域活性化のためなど、様々な観点から継続・安定した地域活動の重要性・必要性が認識されており、内閣府など様々な機関において地域活動や地域活性化に関する調査研究が海外事例も取り入れるなどして行われている¹⁾。河川行政においても水循環の健全化に関わる施策がより有効に発揮されるには継続・安定した地域活動との協働が不可欠であると認識している²⁾。そこで、流域の健全な水循環の達成・維持という観点からこれに関わる地域活動の継続・安定を有効に支援する手法を検討するために地域活動の実態を調査し、継続・安定した活動の要因について新たな知見を得た。以降、本稿で扱う(地域)活動は「水循環の健全化に係わる地域活動」をいう。

2.対象事例 本研究では、全国の地域活動の事例から、継続・安定した地域活動が行われていると考えられる以下7事例を対象に、地域活動団体や関連する自治体への聞き取り調査及び活動拠点などの現地調査を行うことで、継続・安定した地域活動の要因を抽出・整理し、考察を行った。

墨田区一寺言問地区における防災まちづくり

郡上八幡における用水保全活動

新町川を守る会の環境保全・まちづくり活動

西条酒造組合を中心とした森林保全活動

グラウンドワーク三島による環境保全活動

榎野川における環境保全活動

矢作川水系での森林保全活動

この7事例は、地域活動の主体や活動の対象範囲によって以下3つに分類可能である。

・「地域完結型」:地域住民が主体で、町内単位など地域限定の活動...

・「賛同者参加型」:地域活動団体が主体で活動の趣旨に賛同する地域内外の人が参加する活動...

・「ネットワーク型」:コーディネーターとなる団体を中心に複数の団体が連携する活動...

ある活動主体によるある一地域を対象とした活動(地域完結型や賛同者参加型)が継続・安定していなければ、ネットワーク型の活動が継続・安定することもない。そこで本研究では、特に地域完結型・賛同者参加型に見られるような個別の地道な活動における継続・安定した活動の要因に着目した。

3.継続・安定した地域活動の要因として各事例に見られた共通事項

各事例対象地では、地域活動主体が、普段からのつきあいなど地域住民等との密接なコミュニケーションを通して、地域の課題や人的、歴史・文化的な情報を十分に把握していることが窺えた。これによりもたらされている次の3点は、各事例に共通した特徴であり、継続・安定した地域活動の要因であると考えられる。さらにこの3点は7事例ともに揃って存在していることも特徴である。

A:地域性を踏まえた活動内容・手法の設定と活動の実施がなされていること

B:地域活動を通じて、地域住民の地域への関心や、地域課題、環境保全などへの地域住民の意識が醸成されていることや、元々存在する生活環境の保全・維持などの地域のルールが継承されていること

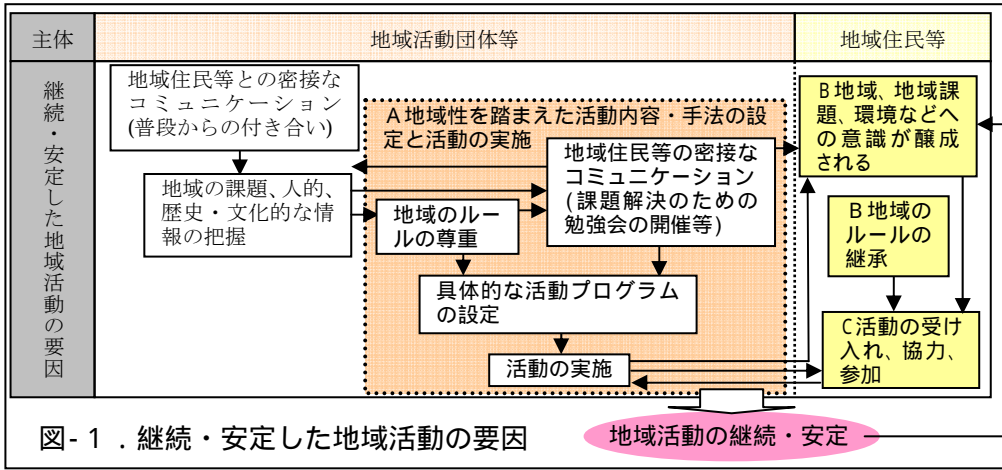
C:活動が様々な形で地域住民等に受け入れられていること(活動への積極的参加あるいは協力など)

「地域性」の定義は後述する。「地域住民等」は「その地域の住民と、仕事等でその地域に一定時間以上継続的に滞在する人」とした。図-1は、継続・安定した地域活動の要因について、地域活動団体側と地域住民等の側の視点で整理したものである。実際にはこの2者だけでなく、行政や企業との協働・連携も踏まえた活動プログラムが設定されるが、ここでは地域活動団体と地域住民等との関係のみ整理した。これを具体的な事例で示す。

事例1):「NPO 法人新町川を守る会」では、新町川と

キーワード 水循環健全化, 地域活動, 地域性, 地域活動支持力, 地域の人的・歴史的基盤

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地 国土技術政策総合研究所 河川環境研究室 TEL 029-864-2587



の継承が、B住民の意識の醸成に繋がり、C地域住民等による活動の継続・拡大へと繋がっている。

4. 地域活動支持力と地域の人的・文化的基盤

以上より、継続・安定した地域活動のためには地域活動と地域性がかみあっていることが重要であると言える。つまり、

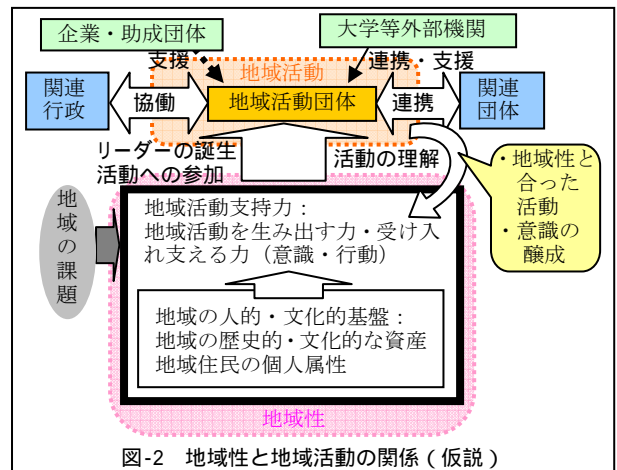
その流域の環境保全を目的に、新町川の清掃・イベント開催、森林保全、吉野川でのイベント開催など様々な活動を行っている。対象地域が比較的広範囲(徳島市中心部、新町川流域)であることから、地域への愛着の度合いや関心の持ち方は住民間で大きく異なる。そのため、活動の参加者の関心に応じて前出のような多種多様な活動を実施している。河川清掃は10年以上定期的に継続しており、その姿を地域住民に見せ続けることで、地域住民が川を汚さないといった意識を持ち、これがさらに良好な河川環境の創出と維持に繋がっている。地域住民は、活動への主体的な参画、イベントへの参加、気付いたゴミは拾う、など様々な形で活動に参加している。

つまり、A地域性を踏まえた活動が実施されており、B地域住民の意識の醸成を通じて、良好な河川の状態の維持が行われており、C地域住民等も様々な形で地域活動を受け入れている。

事例2)：郡上八幡(郡上市八幡町中心部)では、江戸時代から用水が整備されており住民による維持管理も行われてきた。居住年数の長い住民が多く、比較的強固な地域コミュニティが形成されている。現在いくつかの町では、町内会単位での用水整備が行われており、町並み保全にまで活動が拡大した町内会もある。つまり、地域に元々存在する地域のルール(町内会による用水の維持管理)に基づく活動である。更に多くの住民が幼少期からこの環境で育っているため、次世代への活動の引き継ぎは現在のところ比較的円滑に行われている。また、地域活動は単に用水整備や町並み保全だけでなく、住民間や住民と観光客の円滑なコミュニケーションの形成に繋がっており、このことが、さらに地域全体の課題に対する意識の醸成や活動の意欲に繋がっている。

つまり、A地域性を踏まえた活動の実施や、活動によって得られる外部(観光客)からの評価、B地域のルール

り、継続・安定した地域活動のためには「地域性」の適正な把握が重要となる。地域性とは、その地域が持つ、地域活動を生み出し・受け入れ・支える意識や行動(仮に「地域活動支持力」とよぶ)と、この「地域活動支持力」を醸成する、地域の持つ歴史・文化や住民個人の経験など(仮に「地域の人的・文化的基盤」とよぶ)であると考えている(図-2)。この「地域の人的・文化的基盤」を定量的に把握する(例えば地域の歴史的・文化的な有形・無形の資産や居住年数・居住形態・就業形態など住民の個人属性など)ことで、「地域活動支持力」の客観的な把握が可能になり、各地域における地域性を踏まえた活動内容・手法の設定の際の有効な材料になると考えられる。



5. おわりに 今後はより詳細な事例調査により「地域の人的・文化的基盤」の指標化、継続・安定した地域活動のための活動プログラムやコミュニケーションツールの地域性に対応させた提示を行いたい。

参考文献

- 1)たとえば、内閣府経済社会総合研究所「コミュニティ機能再生とソーシャル・キャピタルに関する研究調査報告書」平成17年
- 2)福田ら「自然と共生する国土の再構築のためのプロセスと技術研究」土木技術資料 Vol.48, No.1